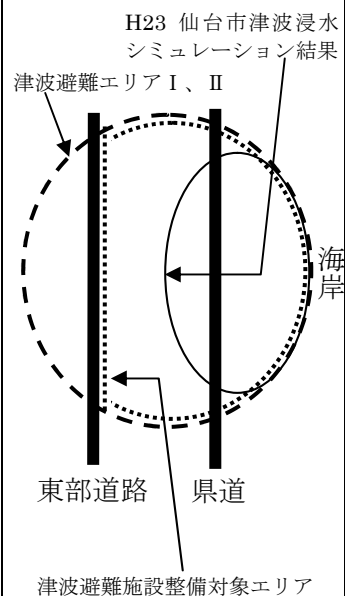


第1回検討委員会における委員意見への対応（案）

発言者	項目	意見	対応の方向性	対応方法（案）
折腹 委員	高所への避難時間(P31)	高齢者や車椅子の方は避難距離に限られる上、高台へ避難するのが困難であるため、対応が必要である。	高齢者などの要援護者の方は歩行速度・避難距離を考慮し、避難施設の設備として、スロープや手すり等を検討する。また、地域の方の協力による要援護者の状態に合わせた誘導により高台へ避難してもらうなど、啓発活動等を通じた検討も行う。	素案等の中で整理を行う予定。
越村 委員	津波避難施設整備の対象エリア(P26,27)	避難エリア、対象エリア等の用語の関連性を整理し、市民が分かるように説明する必要がある。	<p>『津波避難エリアⅠ、Ⅱ』 東日本大震災の津波により被害を受けた現時点の地形等による津波危険について暫定的に示したもの。</p> <p>『津波避難施設整備対象エリア』 H23 仙台市津波浸水シミュレーション結果を参考に、海岸・河川堤防整備、県道かさ上げ後も県道を越流することを考慮し、より広めに示したもの。</p> <p>『H23 仙台市津波浸水シミュレーション結果』 海岸・河川堤防整備、県道かさ上げ後の津波浸水域を示したもの。</p> <p>用語の関連性を整理し、市民に分かりやすい形にしていく。</p>	素案等の中で整理を行う予定。



佐藤 (健) 委員	避難対象エリア人口の見積もり (P38)	人口の見積もりに年次変動も必要ではないか。	対象エリアの将来人口は、公園等のイベントで一時的に増えることがあっても、集落全体として増える要素はないため、微増はあっても急激な増加は考えられない。現地の土地利用から考えると、最大でも震災前の人口と大きく変わりはないと考える。	第2回検討委員会等で提示予定。
徳永 委員	避難開始時間の考え方 (P30) 避難速度 (P36)	避難開始時間、避難速度を平均値ひとつでなく分布等も考慮する必要がある。	平均値のみではなく、平均値を代表値としながらも、年齢等による分布を考慮する。	素案等の中で整理を行う予定。
増田 委員	津波避難施設整備の対象エリア (P26)	県道かさ上げ前の浸水深を示して検討すべき。	避難施設の整備と県道のかさ上げとはスケジュール的に大きな開きはないため県道かさ上げ後の浸水深で検討したい。	素案等の中で整理を行う予定。
	津波避難施設整備の対象エリア (P27)	対象エリア以外に配慮が必要な施設があれば検討すべき。	基本は東部道路より東側を対象エリアとし、東部道路より西側でも対応が必要な施設等があれば検討する。	国土地理院発行の浸水地図等を参考に検討が必要な施設の有無を調査する予定。
	高所への避難時間(P31)	冒険広場のような高台へ避難する場合、高台避難時間が変わってこないか。	公園の高台であれば、1人が必要な高さまで上るには階段より時間がかかると想定できるが、数人が一度に上れるため、15分で避難が可能と考えている。	素案等の中で整理を行う予定。